

ゴ ミ ゼロ 5 3 0 レポート

第48号 2009年3月31日 発行

編集と発行 530運動環境協議会
〔豊橋市今橋町1番地 豊橋市役所環境政策課内 電話(0532)51-2414〕
〔URL <http://www.530.toyohashi.aichi.jp> E-mail 530@city.toyohashi.lg.jp〕



汐川干潟クリーンアップ大作戦

汐川干潟は渡り性水鳥の全国有数の生息地として知られ、全国に誇ることができる干潟です。このようなすばらしい干潟にも不法投棄されたゴミや流れ着いたゴミがたくさんあります。今回の汐川干潟クリーンアップ大作戦では会員、杉山校区自治会など多くの方に参加していただき、大変多くのゴミを拾いました。活動終了後、この汐川干潟が鳥などの干潟で暮らす生き物にとって住みよくなるとともに、この恵み豊かな自然を次の世代に引き継ぐ必要があると改めて思いました。また、2月は「省エネルギー月間」ということで、省エネ街頭啓発に加え、No!包装キャンペーンを実施し、環境啓発活動にも力を入れました。

530運動は屋外の活動が多く、この時期は寒いなかでの実施となりますが多くの方に積極的に参加をしていただきました。美しいまち豊橋をめざし行っている活動の様子をご紹介します。

また、会員紹介コーナーでは、530会員の環境に関する取り組み等についても掲載していますのでご覧ください。

530会員募集のお知らせ

530運動環境協議会は、環境美化活動から省資源・省エネルギー、環境教育など、今後も様々な取り組みを行い、ゴミがゼロになる社会を目指します。

本協議会では活動に参加・協力していただく会員を募集いたしております。法人・団体会員は1口1万円、個人会員は1口500円、いずれも年会費で1口以上です。申込は協議会事務局窓口のほか、ホームページからできます。

目次

エネルギーを巡る状況	2
省エネ街頭啓発	2
No!包装キャンペーン結果	3
会員紹介コーナー	4



エネルギーを巡る状況

高度経済成長以降、私たちの身の回りのモノは確実に増加してきました。とくに家電製品の普及はいちじるしく、近年は、パソコンや携帯電話などの情報機器の普及が顕著になっています。さらに、モノが増えただけでなく、家電製品や自動車の大型化・高級化も進みました。また、自由時間の増加によるレジャー活動の活発化、夜型化による照明時間の増加などライフスタイルの変化も起こりました。現在の私たちの社会や暮らしは、大量のエネルギー資源に支えられています。日常生活に欠かすことのできない電気、ガス、水道はもちろん、現代社会の基盤となっている交通、運輸、通信など全てエネルギーを利用しています。ふだんの暮らしの場からは見えないところでも、水資源、食品、工業製品など、あらゆる身の回りのものはその生産過程や廃棄過程において、エネルギーを使用しています。

そして、エネルギー消費に深く関わることとして世界の急激な人口増加があります。世界の人口は西暦元年ごろ約3億人であったのが、1804年に10億人へ増加した程度で、長い間、人口増加率は非常に緩やかなものでした。その後、近世に入って次第に増加の勢いが強まり、1927年には20億人、1960年には30億人、1974年には40億人、1987年には50億人に達していました。そして、1999年10月12日、ついに60億人を超えました。最後の10億人が増加するのに、わずか12年間しかかかりませんでした。2050年には91億人になるというのが、標準的な見通しだそうです。このような驚異的な発展は環境に大きな影響を与えるものと思われます。

また、世界のエネルギー資源の可採年数は、2006年末で石油が41年、天然ガスが65年、石炭が155年、ウランが85年となっており、そして、日本はエネルギー源のほとんどを石油をはじめとする化石燃料に依存していて、海外から約96%を輸入している厳しい状況にあります。

このように世界のエネルギー事情は厳しい状況にあります。日本はオイルショック以降の取組により世界に冠たる省エネルギー国家となっており、今後、世界をリードしていくことが期待されています。

資料:エコライフ・ハンドブック2008(内閣府国民生活局)
日本のエネルギー2008(資源エネルギー庁)

省エネ街頭啓発

2月2日の早朝、豊橋駅ペDESTリアンデッキで「省エネルギー月間」に合わせて、省エネ街頭啓発を行いました。

元々、省エネルギー月間は、70年代のオイルショックを受け、1977年にエネルギーの安全保障という面から始まったようです。近年は、地球温暖化等の環境問題に重点が置かれ、各地で啓発活動が行われています。

当協議会でも、省エネルギーの啓発を行うため、会員約35人が参加し、通勤・通学中の方にひざ掛けを配布しました。ひざ掛けをすることで、暖房器具の設定温度を1下げてもらいエネルギーの節約につなげようという試みです。用意した1,000枚のひざ掛けを約30分で配り終わりました。暖房器具の設定温度を下げるのは、数多くある省エネの取組みの一つです。省エネに対する注目度が日増しに高まっている、そんな時代だからこそ、今回の街頭啓発が、皆さんの省エネライフをスタートさせるきっかけになればと思います。自分で出来る身近な環境へのアプローチ。皆さんはどんな省エネライフを選びますか？





No! 包装キャンペーン

530運動環境協議会では2月を「NO! 包装キャンペーン」月間とし、買物時における過剰包装や余分となるレジ袋の削減を呼びかけました。

過剰包装といえば、中国では伝統行事の「中秋節」に「月餅」を送るのだそうですが、その過剰包装が問題になりました。この過剰包装によるゴミはなんと金額にして4兆円を超えるそうです。そこで中国政府が「商品1個あたりの包装のすきまは55%を超えてはならない」「3重以上の包装をしてはならない」といった過剰包装に対する条例(案)を発表しました。私たちにとっても過剰包装は他人事ではないので、より包装の少ない物を選ぶなければならないですね。

さて、今回のキャンペーンでは、「ごみ減量コンクール」としてごみ減量に関するアイデアと標語を募集しました。また、「CO2を減らそう! 省エネ実施キャンペーン」として家庭で簡単にできる10項目の省エネに関する取組みを設けて家庭での省エネの取組みについてチェックしてもらいました。

これは、アイデアや標語を考えていただいたり、省エネの取組みをチェックしていただくことで、改めてごみ減量や省エネについて考えるきっかけとしてもらえればと考えて実施しました。

今回の募集に対してアイデアには75点、標語には556点、省エネチェックには196家庭という大変多くの参加をいただきました。

「ごみ減量コンクール」ではユニークなアイデアや標語が多数ありましたが、各部門において各賞を決定し、優秀賞の圧力鍋をはじめ各賞に景品をお贈りしました。また、惜しくも入選を逃した方へも参加賞として携帯用マイバッグをお贈りしました。省エネ実施キャンペーンでは応募者抽選の上100名様に省エネエコタップをお贈りしました。「ごみ減量コンクール」の入選作品、「省エネ実施キャンペーン」の集計結果は以下のとおりですのでご覧ください。たくさんのご応募誠にありがとうございました。



アイデア部門

優秀賞	中田由紀	買い物前に冷蔵庫の中をチェックし、買ってきたらレシートを張っておく。使った物から消していく。
入選	市川智恵	買い物に行く前にメモをして冷静に必要な物が第一チェックをする。それでも特売品などの誘惑に駆られる場合には、実家等に電話をしてアドバイスをもらい他人の意見を聞くことで再び冷静に第二チェックをする。
"	羽場敏子	4、5日分まとめ買いをする。その際に献立を描いて買い、一つの食材を複数の献立に使いまわすシュミレーションを同時にし、その日数で全て使い切る。余分な買い物や多種買いをせず、常に使いまわす事を意識する。
"	正岡由仁	食品を買う時にすぐに食べるものは、近く処分されてしまう賞味期限の近いものから買う。
佳作	赤石裕佳里	スーパー等で山積みされている野菜は、ビニール袋を使わずに、そのまま買い物カゴの中に入れる。また、使い古したビニール袋を持って行き、その中に野菜を入れて何回も使う。
"	浅井美希子	買物は自転車か徒歩で行く。あまりたくさん買い物ができず、余分に買ってしまうことがなくなるし、CO2削減にもなり健康にも良い。
"	神谷次郎	同じ靴下を何足か買い、一足の片方がダメになっても、もう片方を捨てずにすむようにする。
"	鈴木整子	卵や肉、魚はトレイを使わない対面販売の店で買い、常にマイバックやふるしきを持っていき、紙の手提げも断る。
"	中司恵理	原材料がリサイクルされた商品、また容器がリサイクル・リユースされた商品を選んで購入する。

標語部門

優秀賞	川原恭子	のこさない すてないことが ゴミへらし
入選	岡本佳和	ゴミおきば メタボぎみだよ ダイエット
"	近藤祐	持ってます 箸にコップに マイバック
"	鈴木清花	むだなもの 買わない食べない 使わない
佳作	鈴木崇哲	レジ袋 かじょう包装 ゴミになる
"	中田優作	エコの芽は 家庭の中から 育ってる
"	日紫喜三千代	分別で ゴミの減量 再資源
"	日比侑茄子	捨てないで まだ使えるよ 君の物
"	山田いづみ	マイバッグ これでわたしも エコ仲間

省エネ実施

家庭でできる省エネチェック10項目	実施率
1. 冷房の温度を1 高く、暖房の温度を1 低く設定する	87%
2. ポットやジャーの保温を止める	77%
3. 家電製品を使わない時にコンセントを抜く	64%
4. 間隔をあけずにお風呂に入る	68%
5. 風呂の残り湯を洗濯に使いまわす	78%
6. 買い物袋を持ち歩き、省包装の物を選ぶ	72%
7. 車の発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする	66%
8. 1日5分間のアイドリングストップを行う	74%
9. 1日1時間テレビの利用を減らす	65%
10. 家族団らんし、暖房と照明の利用を20%削減する	79%





会員紹介コーナー

今回は豊橋信用金庫さん、ユタカコーポレーション(株)さんの環境に関する取り組みなどについて紹介します。

「きれいで住みよい町づくりのお手伝い」

豊橋信用金庫

当金庫は、「地域社会の中小企業ならびに一般大衆に信用され 頼られ 愛される金融機関となる」を基本方針として、地域に根ざした活動を通し、皆様から「とよしん」の愛称で親しまれています。営業地区は、豊橋市を中心とする東三河地域と静岡県西部で豊橋市内に21店舗のほか、豊川市・田原市・新城市・湖西市に11店舗を配置して営業展開しています。

豊橋市が発祥の地である530運動については、地域貢献活動の一環として、運動が開始された昭和50年から毎年春と秋の2回「きれいで住みよい町づくりのお手伝い」を合言葉に清掃活動を行っています。役職員全員が、就業前の時間を利用して、竹ぼうきやちりとり、ゴミ袋を手に店舗周辺の空き缶、空きびん、紙くず、たばこの吸殻を拾うなど、環境美化に取り組んでいます。

530運動をはじめ、自然環境の維持および改善に努めるため、クールビズやウォームビズを実施し、環境改善にも取り組んでいます。

当金庫は地域金融機関として、地域の中小企業の皆様の発展や一般のご家庭の皆様の暮らしの向上をお手伝いするとともに、環境保全活動などの社会貢献活動を行うことも重要な役割と考えています。今後も、530運動に積極的に取り組み、当金庫のキャッチフレーズである「おたくもうちも豊橋信用金庫」のとおり、この地域になくてはならない信用金庫を目指してまいります。



『気付いた人が気付いた時に』クリーンキャンペーン実施中です。

ユタカコーポレーション(株)

「笑顔いっぱいのユタカです」のキャッチフレーズでおなじみの「ユタカコーポレーション」は自動車学校を豊橋と豊川で運営し1960年の開校以来、運転免許の取得をサポートし東三河の車社会を縁の下から支えています。グループ会社では自動車販売、自動車整備、ガソリンスタンド、保険代理業と「車のトータルサービス」を通じ「より安全・より安心・より快適」をキーワードに皆様のカーライフをサポートしております。

私たちは、年間を通じ朝の清掃活動を実施していますが、「530運動」にもっと積極的に参加しようということで部署ごとに曜日を定め、出勤時間前に奉仕活動として会社周辺の道路を重点的に掃除しています。

車道にポイ捨てされたタバコの吸殻、植込みに隠された空き缶や雑草、歩道にへばり付いたガム等を片付けています。

時々、歩道に設けられた「バス停のベンチ」に、食べ散らかった弁当の容器が捨てられていて、「マナーの悪さがっかり」でも負けずに頑張っています。

街路樹にはイチョウが植えられており、黄葉したあとの落葉で道路一面が黄色くなった朝はとっても綺麗でも、どうしよう！」気を取り直し、みんなで力を合わせ片付け終わると、道路と同じで気分も「スッキリ」です。

ユタカサービスグループでは現在1月から3月までを「美化強化期間」として「気付いた人が気付いた時に」を合言葉にクリーンキャンペーンを実施中です。

2008年度は、「ユタカグループ創立70周年」を迎えることができ、地域の皆様への感謝を込めて今後も530運動に「笑顔いっぱい」で積極的に取り組んでまいります。

